



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月6日

上場会社名 株式会社フレンドリー 上場取引所 東  
 コード番号 8209 URL <http://www.friendly-co.com/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)中井 豊人  
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部副本部長 (氏名)鮫島 篤志 (TEL)072(874)2747  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	6,532	△5.9	△464	—	△461	—	△680	—
26年3月期第3四半期	6,944	△3.2	△196	—	△164	—	△193	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△47.67	—
26年3月期第3四半期	△13.23	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	5,821	1,704	29.3
26年3月期	5,348	1,973	36.9

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 1,704百万円 26年3月期 1,973百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,852	△3.0	△549	—	△537	—	△765	—	△54.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無  
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期3Q	13,599,281株	26年3月期	14,645,584株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	29,660株	26年3月期	28,660株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期3Q	14,302,693株	26年3月期3Q	14,618,563株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）2ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7
5. 補足情報	7
(1) 生産、受注及び販売の状況	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社において開示対象となる報告セグメントは、フードサービス事業の単一事業であるため、業態区分別に記載しております。

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府や日銀による経済対策や金融政策の効果に対する期待感から、円安・株高を背景に企業収益や個人消費に改善が見られ、景気は緩やかな回復基調にあります。その一方で消費税増税、節約志向による消費低迷の懸念、海外景気の下振れリスクの懸念など、先行きは、依然として不透明な情勢であります。

当外食業界は、個人消費に回復の兆しは見られるものの、原材料価格の高騰、低価格競争、異業種との競争などもあり厳しい状況でありました。

このような環境のもと、当社におきましては黒字体質への転換を早期に果たすべく、平成26年8月1日付で株式会社りそな銀行（以下、「りそな銀行」といいます。）と連名にて、株式会社地域経済活性化支援機構（以下、「機構」といいます。）に対して事業再生計画を提出して再生支援の申込を行い、同日付で機構より再生支援決定の通知を受け、諸施策を実行しております。

店舗展開につきましては、「ファミリーレストラン フレンドリー」3店舗を「産直鮮魚と寿司・炉端 源ぺい」に業態転換いたしました。一方、「産直鮮魚と寿司・炉端 源ぺい」1店舗、「ファミリーレストラン フレンドリー」2店舗、「釜揚げ讃岐うどん 香の川製麺」3店舗、「団欒れすとらん ボンズ」2店舗を閉店いたしましたので、当第3四半期会計期間末の店舗数は、前事業年度末比8店舗減少し、88店舗（前年同期比9店舗の減少）となりました。

業態別には、「産直鮮魚と寿司・炉端 源ぺい」30店舗、「おいしい・たのしい・ここちいい」をコンセプトとする洋食の「ファミリーレストラン フレンドリー」20店舗、「釜揚げ讃岐うどん 香の川製麺」14店舗、「日本の原風景「里山」」をコンセプトとする居酒屋「和み料理と味わいの酒 土筆んぼう」12店舗、「和・洋・中の料理と団欒」をコンセプトとする「団欒れすとらん ボンズ」9店舗（内1店舗は「源ぺい」へ改装中）、「フレッシュフレンドリー」1店舗、「新・酒場 なじみ野」1店舗、「ハッピーコング」1店舗となっております。

商品政策につきましては、「健康・安全・おいしさ」の見地から食材を厳選し、お値打ちな商品の提供と同時にライブ感を味わっていただけるように努めました。食の安全・衛生管理につきましては、引続き「フレンドリー品質基準」の構築と衛生管理と検査体制を確立し、厳格に運用しております。

これらの結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高は6,532百万円（前年同期比411百万円の減少）、営業損失は464百万円（前年同期は営業損失196百万円）、経常損失は461百万円（前年同期は経常損失164百万円）、四半期純損失は680百万円（前年同期は四半期純損失193百万円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、5,821百万円で前事業年度末比473百万円の増加となりました。主な要因は、現金及び預金、有形固定資産の増加によるものです。負債合計は、社債の増加、債務の株式化による減少等の結果、前事業年度末比742百万円増加し、4,117百万円となりました。純資産は、債務の株式化による増加、四半期純損失による減少等の結果、前事業年度末比269百万円減少し、1,704百万円となりました。この結果、当第3四半期会計期間末の自己資本比率は、前事業年度末比7.6%減少し、29.3%となりました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、個人消費に回復の兆しは見られるものの、原材料の高騰、低価格競争、異業種との競争など引続き厳しいものと予想しております。

このような環境のもと、当社におきましては黒字体質への転換を早期に果たすべく、平成26年8月1日付でりそな銀行と連名にて、機構に対して事業再生計画を提出して再生支援の申込を行い、同日付で機構より再生支援決定の通知を受け、諸施策を実行しております。

なお、詳細につきましては、平成26年10月31日付「業績予想の修正および特別損失の発生に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前期において7期連続の営業損失、9期連続の当期純損失となり、平成23年2月より取引金融機関に対して借入金の返済猶予を要請している状況にありました。

当該状況を解消すべく、平成22年10月に「経営構造改革計画」を策定し、その基本方針である「店舗数の拡大による規模の効果を求める経営から、利益率や店舗ごとの採算性を重視する経営スタイルへの転換」「CS活動を軸にした企業風土の改革」のもと、業態ポートフォリオの見直し、新業態の実験と展開、オペレーションの改善、CS活動への取組み等、引き続き事業構造の改革に取り組んでまいりました。

かかる状況において、当社が持続的な成長をしていくためには、更なるコスト削減を図るとともに、経営の強化及び財務体質の改善を伴う抜本的な事業再構築を推進することが不可避であることから、平成26年8月1日付でりそな銀行と連名にて、機構に対して事業再生計画を提出して再生支援の申込を行い、同日付で機構より再生支援決定の通知を受け、諸施策を実行しております。

上記の事業再生計画の一環として、当社は、①既存店舗の全店改装による集客力の改善、②改善されたハード(店舗設備)を最大限に活かす店舗オペレーションの改善、③業態転換による業態の絞り込みと集中、④売上改善への取組み強化、以上の事業整理に伴う⑤本社管理機能の効率化及び追加のコスト削減、⑥戦略的な店舗撤退の6つの施策を柱とし、業績改善を図ってまいります。

また、当社は機構の再生支援手続の中で、取引金融機関に対する平成26年8月1日から平成31年9月末までの間における金融債権元本の弁済猶予、りそな銀行に対する4億円の債務の株式化、機構を引受先とする新株予約権付社債及び新株予約権の第三者割当による約10億円の資金調達を、平成26年10月30日付けで実行しており、さらにりそな銀行による総額5億円のコミットメントライン契約を平成26年10月3日付で締結しております。当社としては、これら施策の実行により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	815,234	1,001,992
売掛金	56,266	66,365
商品	51,277	63,964
貯蔵品	1,088	1,088
前払費用	59,579	77,719
その他	7,658	51,616
貸倒引当金	△61	△74
流動資産合計	991,043	1,262,673
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	681,334	902,734
土地	2,078,991	2,078,991
その他(純額)	222,857	262,172
有形固定資産合計	2,983,183	3,243,897
無形固定資産		
投資その他の資産	43,995	37,260
投資有価証券	86,975	101,440
差入保証金	1,209,546	1,150,699
その他	35,948	27,813
貸倒引当金	△2,480	△2,360
投資その他の資産合計	1,329,990	1,277,593
固定資産合計	4,357,168	4,558,752
資産合計	5,348,212	5,821,426

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	235,947	295,459
短期借入金	960,665	—
1年内返済予定の長期借入金	1,126,830	—
未払金	392,715	446,354
未払法人税等	50,248	31,077
店舗閉鎖損失引当金	—	5,783
資産除去債務	—	8,335
その他	36,448	71,439
流動負債合計	2,802,855	858,449
固定負債		
社債	—	1,000,000
長期借入金	—	1,681,843
長期未払金	45,350	—
繰延税金負債	20,616	19,429
再評価に係る繰延税金負債	120,228	120,228
資産除去債務	345,989	315,415
その他	39,290	121,961
固定負債合計	571,474	3,258,877
負債合計	3,374,329	4,117,327
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,975,062	4,175,062
資本剰余金	3,058,146	3,258,146
利益剰余金	△4,045,750	△4,726,121
自己株式	△12,587	△12,879
株主資本合計	2,974,870	2,694,207
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	20,184	31,063
土地再評価差額金	△1,021,172	△1,021,172
評価・換算差額等合計	△1,000,987	△990,108
純資産合計	1,973,883	1,704,099
負債純資産合計	5,348,212	5,821,426

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	6,944,199	6,532,251
売上原価	2,018,865	1,937,220
売上総利益	4,925,333	4,595,030
販売費及び一般管理費	5,121,968	5,059,226
営業損失(△)	△196,634	△464,195
営業外収益		
受取利息	2,900	2,440
受取配当金	1,912	2,442
受取家賃	79,567	51,702
設備賃貸料	24,447	20,450
その他	11,609	9,870
営業外収益合計	120,438	86,906
営業外費用		
支払利息	41,207	43,616
賃貸費用	35,173	30,870
設備賃貸費用	9,243	7,681
その他	2,627	2,186
営業外費用合計	88,251	84,356
経常損失(△)	△164,447	△461,645
特別利益		
役員退職慰労未払金戻入額	—	45,350
特別利益合計	—	45,350
特別損失		
固定資産除却損	5,603	22,251
減損損失	—	158,644
店舗閉鎖損失	—	9,909
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	5,783
事業再生費用	—	48,154
特別損失合計	5,603	244,742
税引前四半期純損失(△)	△170,051	△661,037
法人税、住民税及び事業税	25,054	24,106
法人税等調整額	△1,699	△4,773
法人税等合計	23,354	19,332
四半期純損失(△)	△193,406	△680,370

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間において、A種優先株式の発行により、資本金が200,000千円、資本準備金が200,000千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が4,175,062千円、資本剰余金が3,258,146千円となっております。

(セグメント情報等)

当社はフードサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 5. 補足情報

## (1) 生産、受注及び販売の状況

当社において開示対象となる報告セグメントは、フードサービス事業の単一事業であるため、主に業態区分別に記載しております。

## ①生産実績

記載すべき事項はありません。

## ②受注実績

記載すべき事項はありません。

## ③販売実績

当第3四半期累計期間における販売実績を業態区分別に示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

業態区分の名称	当第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	前年同期比(%)
産直鮮魚と寿司・炉端 源ぺい	2,485,287	103.8
ファミリーレストラン フレンドリー	1,497,025	84.2
釜揚げ讃岐うどん 香の川製麺	870,600	97.7
和み料理と味わいの酒 土筆んぼう	833,093	92.5
団欒れすとらん ボンズ	642,417	87.1
フレッシュフレンドリー	74,850	—
新・酒場 なじみ野	71,741	106.1
ハッピーコング	57,233	40.4
合計	6,532,251	94.1

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 「産直鮮魚と寿司・炉端 源ぺい」は、前第3四半期累計期間に比べ、28店舗から30店舗に増加しております。

3 「ファミリーレストラン フレンドリー」は、前第3四半期累計期間に比べ、26店舗から20店舗に減少しております。

4 「釜揚げ讃岐うどん 香の川製麺」は、前第3四半期累計期間に比べ、17店舗から14店舗に減少しております。

5 「団欒れすとらん ボンズ」は、前第3四半期累計期間に比べ、11店舗から9店舗(内1店舗は「源ぺい」へ改装中)に減少しております。

6 「フレッシュフレンドリー」は、平成25年9月に新装オープンしたため、前年同期比の記載は省略しております。

7 「ハッピーコング」は、美原店が平成25年8月に、泉北豊田店が平成25年9月に閉店しております。